

## 外国人シングルマザーたちの声

「熊本地震と外国人シングルマザー★多文化共生を考えるシンポジウム」より  
インタビュー調査の参加協力者からの報告

第1部 マリさん・カレンさん・ローサさん（いずれも仮名）

第2部 メアリさん・アリスさん（いずれも仮名）

### 第1部

#### マリさん・カレンさん・ローサさんの声

##### 佐久間(以下 S) :

ここからは、実際に被災した外国人シングルマザーの皆さんに、熊本地震やそれに関連する様々な問題にどう向き合ってきたか、聴いてみたいと思います。まずは、マリさんから。4月14日の前震の時は、どこで何をしていましたか。

##### マリさん(以下 M) :

14日は、自宅にいました。地震のときは、本当に怖かった。すごくびっくりして、子どもと一緒に3人で、トイレに避難しました。テレビをつけて観ても、日本語が分からない。でも、私はクリスチャンだから、毎日お祈りしているから大丈夫と言い聞かせました。外を見ると、みんながどこかに向かって、歩いたり車で移動したりしていましたが、どこに行っているのか分からない。だから、私は夜の間ずっと起きていました。子どもの一人がちょうど熱を出していたので。

S: 近所の方がどこかに向かっていたけれど、どこに行っているのか分からなかったんですね。

では、カレンさんは、14日はどうしていましたか。

##### カレンさん (以下 K) :

地震のときは、すごくドキドキしました。アパートから逃げたいけれど、電話がつながらず、タクシーも呼べない。子どもの父親（元夫）に連絡しても、「がまんしなさい」と言われました。でも、子どもは5歳と3歳で、心配です。友達に連絡したら、迎えに来てくれて「ハーモニーホール」（1次避難所）に連れて行ってくれました。

**S:** お友達が迎えに来てくれて、避難所に連れて行ってくれたんですね。

**K:** 大変だったけど、子どものために強くなりました。余震で子どもが怖がることもあったけど、「それはママが音を出しただけだよ、地震じゃないよ」と言って、なだめることもありました。

**S:** では、次にローサさんに伺います。14日の地震のときは、どうでしたか。

**ローサさん (以下 R):**

その時は、友達がちょうど家にいました。一番下の赤ちゃんは寝ていました。友達と子どもたち4人でリビングですごしている時に、地震がありました。最初は、お化けかと思いました。地震の少し前に、同じアパートの上の階の人が亡くなったので、その幽霊が出たのかと。友達はすぐに玄関ドアを開けて「地震だよ!」と教えてくれました。私は、すぐ寝ていた赤ちゃんを抱きかかえて、スリッパもはかず、裸足で外に飛び出しました。

**S:** ローサさんは、地震の直前に出産したばかりで、赤ちゃんは生後1カ月でしたね。1カ月の赤ちゃんを連れて逃げるというのは、本当に大変だったと思います。

では、4月16日の本震の時以降の様子を聴きたいと思います。再び、マリさんに聴きます。16日の本震の時は、どうしていましたか。

**M:** 私は、自宅に1人でいました。子どもは私の母のところに泊まっていた。私は1人で本当に怖かったです。電気もつかないし。駐車場まで出て、夜が明けるまで、車の中で過ごしました。

**S:** カレンさんは、避難所にはどのくらいいたのですか。

**K:** 「ハーモニーホール」には、2週間くらいいました。

**S:** 避難生活はどうでしたか。

**K:** それは、大変でした…。でも、助かりましたよ。日本人は、朝起きるとおにぎりとおみそ汁作ってくれました。でも、地震の後、収入がなかったので、買いたいものがあったても買えませんでした。食材もない、子どものおむつもなし。だから買い物したいけど、お金がない。スーパーに行くと、他の人はいっぱい買い物していたのに、私はお金がないから、少ししか買えませんでした。でも、避難所の支援物資があったので、それで助かりました。

**S:** カレンさんのお子さんは、アレルギーがあるから、食べ物を選ぶのも大変だったんですね。

**K:** はい、アレルギーがあります。カップラーメンにしても、卵とか小麦とか入っているので、子供は食べられない。支援物資で食べられるのは、おにぎりと、ツナ缶くらいでした。2週間それで過ごしました。

ふだんから食べ物には注意していて、買い物するときは、いつも材料を確認します。日

本語が分からないときは、子どもに聞いたり、店員さんに尋ねたりしています。店員に聞くのは恥ずかしいけど、仕方がないです。

**S:** カレンさんのお子さんは、地震をすごく怖がって、発熱もしたそうですね。

**K:** はい、逃げたときは服も何も持たず家を出て、避難所のコンクリートの上で夜を過ごしました。それで次の日子どもが熱を出して、病院に行きました。ところが病院でも強い地震があって、怖かった。

**S:** ちょうど病院にいるときに、震度 5.5 の余震があったそうです。あと、シャワーも浴びることができず困ったそうですね。

**K:** シャワーは我慢しました。それから、家を片づけに行きたいけど、子どもだけを避難所に置いていくわけにいかず、一緒に帰って片づけている時に地震がまた来たら怖い。大変でした。

**S:** お子さんを連れての避難生活は、本当に大変だったと思います。次にローサさんに伺います。ローサさんは、避難所に 2 か所行きましたね。特に、1 か所目の避難所が大変だったと以前インタビューしたときに聞いていますが、どんな風到大変だったか、話していただけますか。

**R:** 1 番大変だったのは、言葉。次に大変だったのは、避難所の玄関近くで寝たこと。人がすごく多くて、靴箱の近くにしか寝る場所がなかった。布団はないし、犬とか動物もいた。赤ちゃんもいて大変だった。

食べ物も、初めのうちは、私と子ども 3 人に対して、パンが 1 個、水も 1 個。それを 4 人で分けました。赤ちゃんにミルクをあげたいけど、粉ミルクはビニール袋に少ししかもらえず、お湯も十分でなく、紙おむつも足りなかった。「どうしよう、どうしよう」と思っていました。私のことはどうでもいいのですが、子どもには十分に食べさせてあげたかった。そこで中島さんに連絡しました。1 つ目の避難所のことは、忘れたいです。

**S:** その避難所では、外国人であることで苦労したそうですね。

**R:** もう、辛かったです。「あいつ、外国人だ」と言われたり、話しかけてくれなかったり。外国人であっても、助け合えばいいのに、と思いました。

**S:** その後、国際交流会館の避難所に避難したんですね。子どもさんの体調はどうでしたか。

**R:** 国際交流会館は、床がカーペットだったので、そのほこりが原因で体調を崩したのかもしれない。でも、国際交流会館は、温かい物が食べられたし、物も色々もらったので、よかったです。

**S:** 子供さんのことでもう少し聴きたいのですが、避難所での子供さんの様子はいかがでしたか。

**R:** 子どもは、少しの揺れでも驚いて走り出したりしていました。一番うるさかったのは、携帯の（緊急地震速報の）音。「地震です、地震です」と鳴るので、子供が怖がっていました。

**S:** カレンさんはどうでしたか。

**K:** 同じです。「地震です、地震です」という音に驚きました。その後、寝ようとする、また「地震です、地震です」と鳴って、起こされました。

**R:** 4歳の子はその音に驚いてパニックになるので、携帯はいつもマナーモードにしていました。4歳の子は、今も、少し大きな音とか声にも驚いて、「怖い怖い」と言います。

**S:** マリさんの子どもさんも、とても大変だったようですね。

**M:** 子どもはいつも不安がるようになりました。トイレに行ったり、車に物を取りに行ったりするときも、私の姿が見えないと、「ママがいない」と不安がりました。今は、地震から1年たち、ずい分落ち着いてきましたが。

**S:** マリさんは、避難所には行かなかったんですね。

**M:** 私の母の家は、平屋で安心だったので。

**S:** 以前のインタビューのとき、マリさんは「心が変わった」と話していましたね。どんな風に変ったのか、話していただけませんか。

**M:** シングルマザーは、本当に寂しい、怖いと思うようになりました。家の中に男性がいるといいなと思うようになりました。私ひとりで、子ども2人の責任を負っているから。でも、男女のお付き合いは、本当に難しいからね。どうなるのかな…。

**S:** 難しいですね。

**M:** でも、シングルマザーだから、子どものためにも、もっともっと私自身が強くならなくちゃ、だめだよ。がんばります。

**S:** では、次に、情報の取り方について伺いたいと思います。地震についての情報はどこで知りましたか。

**M:** 私は、姉の旦那さんから、いろいろ教えてもらいました。

**S:** マリさんは、実のお母さんとお姉さんも熊本で暮らしていらっしゃるんですね。近くに住んでいらっしゃるの、お互いにサポートしているとのことでしたね。「り災証明書」とか、被災者支援の制度については、知っていましたか。

**M:** いえ、知りませんでした。

**S:** タガログ語での情報はありましたか。

**M:** フェイスブックに載っていることもありましたが、なかなか…。

**S:** 言葉で困ったことはありましたか。

**M:** 漢字は読めないし、平仮名でも意味が分からないことがありました。難しいです、日本語は…。

**S:** 初めのうちは、「避難」という言葉も分からなかったということでしたね。

**M:** 分かるようになったのは、最近です。

**S:** カレンさんにも伺いたいのですが、被災者支援の情報はありましたか。

**K:** 言葉の意味が全然分かりませんでした。一番困ったのは、津波のことです。避難所で、(津波からの避難についての) チラシをもらったけど、よくわからない。津波の警報が鳴

ったけど、何が起きているのか、どこに逃げたらいいのかわからない。ただ神様にお祈りするしかありませんでした。

**S:** カレンさんが住む地域では、海が近いので、大きな余震の時に、実際に津波警報が鳴ったんですね。でも、情報の意味がわからないから、神様に祈るしかなかったんですね。

次に、お仕事について伺います。地震後のお仕事の状況はどうでしたか。

**K:** 私は、2か月くらい休みました。

**S:** 仕事自体が休みだったんですか。

**K:** 仕事はありましたが、保育園が2か月休みだったので、仕事に行くことができませんでした。仕事に行かないから、収入がない。生活がきつくなりましたが、がまんしていました。

**S:** マリさんは、どうですか。

**M:** 仕事自体が、2週間休みでした。その間、給料が入らないから、生活への影響が大きかったですね。苦労しました。

**S:** その間、お金はどうしましたか。

**M:** 借りるところもないし。辛抱しました。でも、お母さんが近くにいるから、助かりました。

**S:** ローサさんは、住んでいたアパートの被害が大きかったですよね。でも、地震の直前に引っ越してきたばかりでしたよね。そのアパートにはどれくらい住んでいたのですか。

**R:** 2か月くらいでした。そして地震に遭って、引っ越すことになりました。

**S:** 引っ越し先の敷金とか、礼金とかは、どうしましたか。

**R:** コムスタカに支援してもらいました。

**S:** 国際交流会館の避難所で過ごしたのは、今回インタビューした外国人シングルマザーの中では、ローサさんだけでした。国際交流会館は、他の避難所と比べて、何が良かったですか。

**R:** 言葉と食べ物。あと、子どもを毎日お風呂に入れることができたのも良かったです。国際交流会館の人が、「お風呂に入れてあげましょう」と言ってくれました。台所みたいところで、シンクにお湯をためて、赤ちゃんをお風呂に入れることができました。私は、その場で泡だらけになって自分の体を洗いました。

**S:** ローサさん自身はお風呂には入れなかったけど、その場に立って体を泡で洗って拭いた、というわけですね。

**R:** 周囲は外国人ばかりで日本人はいないから、見られても気にならなかった。「もう、いや」って。

**S:** 日本人だけの避難所では、そういうことはできなかった？

**R:** できなかったと思います。

**S:** それはどうしてでしょう？

**R**：日本人には、「なんじゃそりゃ」と思われたらろうから、できなかったと思います。外国人しかいない所だったから、できたと思います。周りも「仕方ないよねー」としか思っていなかったと思います。

**S**：では、次に地震が起きたとき、周囲の人や、行政に対して、どういう支援をしてもらいたいと思いますか。

**R**：国際交流会館では、本当によくしてもらったので、何も言うことはありません。みんな優しく、子供の面倒も見てくれました。自分の国でない所で、地震に遭って、外国人は本当に不安だったと思います。家族もいないし。きつかった。とても苦しんだと思います。だから、今度地震が起きたときは、すぐ国際交流会館に逃げます。

**K**：私が一番言いたいことは、英語で情報がほしい。何が起きているのか、どこに行けばいいのか。日本語の情報だけでは、本当にどうしたらいいか分からなかった。それだけです。よろしくお願いします。

**M**：私も同じです。台風の時も、地震の時も、情報は漢字ばかりで、分かりませんでした。平仮名でもいいんです。

**S**：言葉の問題は、本当に重要ですよ。ありがとうございました。

---

## 第2部

### メアリさん・アリスさんの声

佐久間（以下S）：

お二人にも被災体験を伺います。アリスさんは、1回目の地震のときはどうでしたか。

アリスさん（以下A）：

1回目のときは、21：00すぎでしたが、とても揺れました。子どもが驚いたので「大丈夫、大丈夫、ママがいる」と言いました。携帯電話が「地震です、地震です」と鳴ったので、地震だと分かりました。

**S**：その後、避難せずに家にとどまったんですね。2回目の時は、どうでしたか。

**A**：2回目の揺れの後、友達から電話がありました。「また大きい地震がくるよ」と言われました。元夫に電話すると「大丈夫」と言われました。その後、午前3：00頃、友達が家まで迎えに来てくれました。すごくありがたかったです。

**S**：メアリさんは、1回目の地震の時はどこで何をしていましたか。

メアリさん（以下Ma）：

初めての体験だったので、頭が真っ白になりました。ただ娘を抱っこしてただけ。揺れがおさまってから、妹の家に行きました。

**S**：メアリさんも、実のお姉さんと妹さんが近くに住んでいらっしゃるんですね。妹さん

の家にいるときに、2回目の地震に遭ったんですよね。その時の様子を教えてくださいませんか。

**Ma:** 4月16日の午前1:00すぎの地震は、本当にひどかった。義理の弟（妹の夫）が大きな声で「地震、地震！」と言いました。私は、娘の上に覆いかぶさりました。弟が「そのまま、そのまま」と言いました。その後、車の中で過ごしました。

**S:** その後、メアリさんは、妹さんや、お姉さんの家族と2週間車中泊したんですよね。その様子を教えてください。

**Ma:** 私が住んでいるところは、地震はそれほどひどくはなかったのですが、それでも怖かったので、夜寝るときは、車の中で寝ました。車の中は、やはりきつかったです。

**S:** 眠れましたか。

**Ma:** よく眠れませんでした。姉や妹たちと、座席を順番に移りながら寝ました。妹は、その時妊娠していたので、大変でした。

**S:** 食べ物はどうしてましたか。

**Ma:** 近くにお店はあります。でもお米を買いだしても、店に品物がありません。だから妹の家で食料をもらっていました。

**S:** 大変でしたね。2週間後、妹の家から自宅に戻ったんですね。その時の様子を教えてください。

**Ma:** 本当は家に帰りたくはなかった。車の中は、きつかったけど安心でした。でも姉から「ここは大丈夫だから、地震はひどくない。安心していい。」と言われ、家に帰りました。姉にも妹にも、自分の生活があるし。でも、私には夫がいなくて、私と子どもだけ。なかなか安心はできませんでした。でも、隣のおばあちゃんも帰ってきていて、生活が戻っていました。だから、私も家に帰りました。

**S:** 自宅で安心できましたか。

**Ma:** 家に帰っても安心できない。夜は眠れませんでした。その頃も、携帯は「地震です、地震です」とうるさかった。5歳の娘は携帯が鳴るたび怖がりました。私は、娘に「大丈夫だからね、ちゃんと守るよ」「安心して。いつもお祈りしているから、神様が守ってくれるよ」と言いました。シングルマザーになって、父親がいなくなって、やはり大変でした。でも、娘には大変だとは言わなかった。私も怖かったけど、娘にはそのことは言わなかった。娘には「私が守る」と言いました。シングルマザーだから、頑張らないといけないと思いました。

**S:** ご自分も怖い思いをしたのに、子どもの前では弱さを見せなかったんですね。すごく強いお母さんだな、と思います。他にどんなことが大変でしたか。

**Ma:** 外国人だから言葉の問題が大変でした。怖がっている娘に、どんな言葉をかけて安心させてあげればいいのか。

**S:** それは、アリスさんも同じようなことを話されていましたね。お二人とも日本語で子育てをされているんですね。

でも、この1年でお二人とも日本語がとても上手になったなと思います。このインタビュー

ューをしたのは、ちょうど1年前だったのですが、その時アリスさんへのインタビューは、通訳の人に入ってもらったんです。それが、この前久しぶりにアリスさんにお会いしたときに、すごく日本語が上手になってて、びっくりしました。この1年で前に進んだことを感じました。

アリスさんに伺いたいのですが、避難所は1日しか行かなかったんですよね。その時の様子を教えてください。

**A:** そのときは、地域のカルチャーセンターに行きました。でも、そこは天井から電気が落ちてきそうで、寝るところも、奥の方で逃げる場所（出入り口）から遠く、揺れたときにすぐに逃げられないと思いました。怖くて安心できませんでした。

**S:** 食べ物はどうでしたか。

**A:** 近くのスーパーに行っても、買えるのは、水は1人2本まで、パンは1つまででした。いつまた地震が来るか分からないので、毎日行って買って、次の地震のために蓄えていました。

**S:** 食料を手に入れるのも大変だったんですね。あと、以前、「エコノミークラス症候群」になれる人がうらやましい、という話をしてくれましたね。

**A:** 生活保護を受けていて、車がありません。車の中に荷物をいっぱい積み込んだり、車の中で休憩している人を見て、いいなあと思いました。

**S:** 車があれば、荷物も入れられるし、すぐに逃げることができますからね。子どもさんの様子はどうでしたか。

**A:** 子どもは、同じ保育園の子どもたちが避難していたので、うれしかったようです。おやつをもらったりして、ピクニックに行く気分だったようです。

**S:** メアリさんのお子さんはどうでしたか。

**Ma:** 妹の家に戻りたがっていました。普段、お父さんがいなくて、私とふたりだけなので、寂しかったんだと思います。

**S:** 仕事はどうでしたか。

**Ma:** 地震の後、3日間休みました。

**S:** 仕事自体がなかったのですか。

**Ma:** 仕事はありましたが、自分から3日休みました。まだ安心できなくて、子どもと一緒にいたかったので。子どもも離れたくないと言ったので。3日間、二人で車の中で生活していました。その間、給料が出なかったので、生活がきつかったです。

**S:** 次に情報について伺います。地震についての情報は、どこで知りましたか。

**Ma:** テレビを観ても、日本語が分かりませんでした。いつも、義理の弟から教えてもらいました。

**S:** 「り災証明」とか、被災者支援制度については、知っていましたか。

**Ma:** 知りませんでした。つい最近、義理の弟から聞きました。あと、隣のおばちゃんも色々教えてくれました。

**S:** アリスさんは、地震についての情報はどこで知りましたか。

**A:** 全部テレビです。

**S:** 被災者を支援する制度については、知っていましたか。

**A:** 全然知りませんでした。

**S:** 地震で一番困ったことは、何ですか。

**A:** 地震がすごくストレスで、早く国に帰りたい、家族に会いたいと思いました。それから、私は児童手当も生活保護も受けることができ、とてもありがたいと思います。でも、こういう災害のとき、車を持ってない私たちでも行ける、一番近い避難所を教えてほしかったと思います。

**S:** 以前、インタビューしたときには、行政から1度でいいから安否確認をしてほしかった、そしてその際、どこに逃げればいいのか教えてほしかった、と話してくれましたね。

では、次にメアリさんにうかがいます。地震が起こって一番困ったことは何でしたか。

**Ma:** やはり言葉です。例えば、市役所からの便りは英語でもらえたら、助かります。

**S:** 今は、姉妹や義理の弟さんや、隣のおばちゃんが助けてくれますが、行政から英語で情報をもらえたら、手続きなども人に頼らず、自分でできるのに、と以前話してくれましたね。やはり、言葉の問題が一番ですね。

お二人ともありがとうございました。